

15. TomoTherapy を用いた前立腺がん所属リンパ節転移陽性例に対する SIB 法の検討

村田 和俊, 安藤 義孝, 岡崎 篤

(日高病院 腫瘍センター)

加藤 弘之, 神沼 拓也, 小此木範之

田巻 倫明, 中野 隆史

(群馬大院・医・腫瘍放射線学)

江原 威 (埼玉医科大学国際医療センター
放射線腫瘍科)

高橋 健夫 (埼玉医科大学総合医療センター
放射線科)

【目的】 所属リンパ節転移を伴う前立腺癌の標準治療は内分泌療法とされ、放射線治療の有用性は明らかにされていない。今回 Simultaneous Integrated Boost (SIB) 法を用いた所属リンパ節及び前立腺に対する放射線治療の有用性につき検討した。**【方法】** 対象は2006年4月から2011年12月に、TomoTherapy を用いて所属リンパ節転移及び前立腺に対する放射線治療を施行し、治療

開始後3か月以上の経過観察が行えた27例である。部位別の分割線量は前立腺及び(近位)精嚢2.3Gy、転移リンパ節2Gy、所属リンパ節領域1.8Gyとし計30回の治療を行った。治療効果及び有害事象について検討した。**【結果】** 観察期間中央値は18.4月(4.3-42.2)だった。診断時のT因子はT2a:T2c:T3a:T3b:T4=1:2:10:11:4、Gleason Scoreは7:8:9:10=4:5:14:4、PSA中央値は25.27(4.88-68.90)だった。全27例中、最終観察時点で23例は生物学的非再燃が維持されていた。3例に臨床的再発が認められ、照射野内再発が1例、照射野外転移2例であった。臨床的再発が認められていない生物学的再燃が1例であった。急性期有害事象は頻尿19例(G1:G2=13:6)、下痢11例(G1)を認めた。6か月以上経過観察を行っている25例中、晩期有害事象は頻尿6例(G1)、放射線直腸炎3例(G1)であり、現時点では重篤な有害事象を認めていない。**【結論】** 本治療法が所属リンパ節転移陽性例に対する治療の選択肢の1つとなるか症例を積み重ねつつ経過を観察する。